

基本情報

所属	現代ビジネス 学部 地域経済学科	氏名	男 澤 智 治 Ozawa Tomoharu
職名	教授	E-mail	ozawa@cb.kiu.ac.jp
		研究室ウェブサイト	

■ 学歴・取得学位

1985(昭和60)年3月	日本大学理工学部交通土木工学科卒業 工学士
1987(昭和62)年3月	日本大学大学院理工学研究科博士前期課程修了 工学修士
2014(平成26)年3月	博士(学術)第7080号 日本大学

■ 主な職歴

1987(昭和62)年4月	株式会社日通総合研究所 入社
2000(平成12)年4月	中村学園大学流通科学部 専任講師
2004(平成16)年4月	九州国際大学 助教授
2010(平成22)年10月	九州国際大学 教授 (現在に至る)

教育活動

■ 主な担当授業科目

○ 学 部：流通概論・国際物流論

■ 教育上の特記事項

○ 教科書・教材：『港湾ロジスティクス論』晃洋書房、2017年12月
○ 教育活動：
○ 免許・資格：

研究活動

■ 研究分野

研究分野	商学(物流論)
主な研究テーマ	東アジアとの連携を主とした北部九州港湾整備に関する研究
キーワード	北部九州港湾、韓国、中国、台湾、コンテナ貨物

■ 主な著書・論文等

著書

- (共著)『都市・過疎地域の活性化と交通の再生』成山堂書店、2010年、A5版、全231頁、担当は第3章「国土形成計画にみる過疎地域活性化政策」46-60頁。
- (共著)『海と空の港大事典』成山堂書店、2011年、B5版、全247頁、執筆担当分は、多岐にわたり抽出不能。
- (共著)『新修・北九州市史(経済編)』北九州市、2017年、B5版、667頁。担当は第3章第5節「物流」332-358頁。
- (単著)『港湾ロジスティクス論』晃洋書房、2017年、A5版、226頁。
- (共著・編者)『物流を学ぶー基礎から実務まで』中央経済社、2020年、A5版、203頁、担当は第12章「戦後のわが国物流の総括とこれからの物流」181-195頁。
- (共著)『国際ビジネス論を学ぶ』中央経済社、2020年、A5版、213頁、担当は第9章「企業の国際化とコンテナ物流」146-162頁。

論文

- (単著)「台湾における港湾戦略の現状と課題」『港湾経済研究』(日本港湾経済学会) No. 46、2008年3月、47-57頁、査読有。
- (単著)「台湾における港湾開発の動向と課題」『港湾経済研究』(日本港湾経済学会) No. 47、2009年3月、29-39頁、査読有。
- (共著)「韓国における港湾物流の競争力強化に関する研究」『港湾経済研究』(日本港湾経済学会) No. 48、2010年3月、129-140頁、査読無。
- (単著)「ロジスティクス視点からのコンテナ港湾計画論」『港湾経済研究』(日本港湾経済学会) No. 49、2011年3月、1-12頁、査読有。
- (共著)「日韓における産業連携と港湾機能のあり方に関する研究ー自動車部品物流を中心としてー」『港湾経済研究』(日本港湾経済学会) No. 50、2012年3月、31-42頁、査読有。
- (共著)「北部九州地域におけるロジスティクス・ネットワーク構築に関する研究」『日本物流学会誌』(日本物流学会) 第21号、2013年5月、111-118頁、査読有。
- (単著、英文)“A Study of the Harbor Strategy in Colombo Port”『社会文化研究所紀要』(九州国際大学) 第72号、2013年8月、25-48頁、査読無。
- (単著)『東アジアとの連携を主とした北部九州港湾整備のための方法論』日本大学博士請求論文、2013年9月、A4版、全100頁。
- (単著)「日本港湾の今後の整備方向性に関する一考察」『日本商業教育学会九州部会論集』(日本商業教育学会九州部会) 第11号、2014年10月、13-24頁、査読有。
- (単著)「香港港の持続的発展に関する一考察」『港湾経済研究』(日本港湾経済学会) No. 54、2016年3月、57-68頁、査読有。
- (単著)「青島港における港湾発展に関する一考察」『港湾経済研究』(日本港湾経済学会) No. 55、2017年3月、1-13頁、査読有。
- (単著、英文)「A Study on the Current State and Future Development of

Colombo port」『九州国際大学国際・経済論集』創刊号、2018年3月、77-97頁、査読無。

- （単著）「福州港の現状と発展に関する研究」『九州国際大学国際・経済論集』第3号、2019年3月、161-177頁、査読無。
- （単著）「「一带一路」構想と中国鉄道輸送について」『九州国際大学国際・経済論集』第4号、2019年8月、53-71頁、査読無。
- （共著）「中欧班列と日韓発貨物の接続の現状と展望－陸港の発展戦略と日韓の活用戦略－」『日本物流学会誌』（日本物流学会）第29号、2021年6月、111-118頁、査読有。
- （単著）「新型コロナウイルス下における企業のサプライチェーンや物流への影響」『九州国際大学国際・経済論集』第8号、2021年9月、71-92頁、査読無。

学会発表

- （単独）台湾における港湾戦略の現状と課題、日本港湾経済学会第46回全国大会、於：名古屋港管理組合、2007年9月7日。
- （単独）台湾における港湾開発の動向と課題－特に台北港を中心として－、日本港湾経済学会第47回全国大会、於：宮城大学、2008年8月27日。
- （共同）韓国における港湾物流の競争力強化に関する研究、日本港湾経済学会第48回全国大会、於：九州国際大学、2009年9月18日。
- （単独）ロジスティクス視点からのコンテナ港湾計画論、日本港湾経済学会第49回全国大会、於：東海大学、2010年8月30日。
- （共同）日韓における産業連携と港湾機能のあり方に関する研究－自動車部品物流を中心として－、日本港湾経済学会第50回全国大会、於：神奈川大学、2011年9月10日。
- （共同）北部九州地域におけるロジスティクス・ネットワークの構築に関する研究、日本物流学会第29回全国大会、於：流通科学大学、2012年9月15日。
- （単独）コロンボ港の港湾戦略に関する研究、日本港湾経済学会第52回全国大会、於：富山高等専門学校、2013年8月30日。
- （単独）香港港の持続的発展に関する一考察、日本港湾経済学会第54回全国大会、於：大阪商業大学、2015年8月28日。
- （単独）青島港における港湾発展に関する一考察、日本港湾経済学会第55回全国大会、於：北海学園大学、2016年9月9日。
- （単独）「一带一路」構想と中国鉄道輸送について～日本発貨物に対する若干の考察～、ビジネス科学学会第3回全国大会、於：中村学園大学、2019年6月29日。
- （共同）中欧班列と日韓発貨物の接続の現状と展望－陸港の発展戦略と日韓の活用戦略、第37回日本物流学会全国大会、於：専修大学（Zoomで開催）、2020年9月20日。

■ 大学就任以前の主な業務上の実績

	特になし
--	------

■ 主な所属学会

日本港湾経済学会、日本物流学会、日本貿易学会、アジア共生学会

■ 受賞等

特になし

■ 研究助成金による研究

- 科学研究費補助金 基盤研究(C) 課題番号 19530397、2007年度～2009年度
- 科学研究費補助金 基盤研究(C) 課題番号 22530471、2010年度～2012年度

社会における活動等

- 外部委員：北九州港長期構想委員会委員（北九州市、2008年8月～2011年8月）
H23 東アジア複合一貫輸送効率化検討委員会委員長（九州地方整備局、2012年1月～2012年3月）
浦ノ先地区開発構想検討委員会委員長（伊万里市、2012年1月～2012年3月）
国際フェリー・RORO輸送による東アジアとの複合一貫輸送の高度化に向けた調査委員会委員長（九州地方整備局、2012年11月～2013年3月）
九州地域港湾のアジア国際物流の高度化調査委員会委員長（九州地方整備局、2013年10月～2014年3月、2014年12月～2015年3月）
下関港長期構想委員会委員（下関市、2015年12月～2018年11月）
北九州港港湾施設指定管理者検討会委員（北九州市、2017年3月～2017年8月）

大学運営活動等

- 国際関係学部主事（2007年1月～2008年12月）
- 国際センター副センター長（2010年11月～2012年10月）
- 別科日本語研修課程別科長（2011年4月～2012年9月）
- 経済学部副学部長（2013年1月～2014年12月）
- 九州国際大学・硬式野球部長（2013年4月～現在に至る）
- 九州六大学野球連盟・副理事長（2014年4月～2020年3月）
- 経済学部長（2015年1月～2018年3月）
- 国際関係学部長（2017年1月～2018年3月）
- 現代ビジネス学部長（2017年4月～2018年3月）
- 九州六大学野球連盟・理事長（2020年4月～現在に至る）